

【第 25 回歴史的風土部会及び第 1 回明日香村小委員会合同会議】 主な意見と対応

委員	項目	意見・ご質問	対応・回答
A 委員	訪問客について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料 8 の 1 3 ページより、訪問客がずっと下がっており、1 5 ページの図より、高齢者の割合が多いということだが、遠足などに子供が行くというのは大事かと思っている。</li> <li>○訪問客のトレンドが高齢者に偏っていて、子供は来なくなっているのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遠足等については、過去からも多く、特に小学生の遠足等は今も行われている。</li> <li>○高松塚古墳の発見時などは、過剰な訪問客が訪れることで、地元の村民（特に耕作者の方々）に抵抗感をもつ人がいる。</li> <li>○旅行者の傾向も全国からバスに乗ってやってこられているという方々が非常に多かったが、今は 2 人、3 人、あるいは 5 人ぐらいでというぐらいの方々がぐっと増えているという状況である。（森川村長）</li> </ul>
	資料提供依頼について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料 6 の例えば 8 ページに記載の土地利用の既成の図のオリジナルの図がほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○解像度の高い図を提供する。（国）</li> </ul>
	交通サービスについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ローカルなエリアできちんと農業をやっていただくためにも、人の足を確保するのは非常に大事なことなので、その交通のサービスがどうなっているかということに関しても、追加の情報をほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現在の交通については、最初の周遊バスが赤かめ周遊バスであり、こちらは 2 2 0 円からのいわゆる対距離料金で、橿原神宮前駅から村内の主要拠点を經由して飛鳥駅までの 1 時間 1 本といったダイヤで周遊する路線。令和 4 年度の利用者数は 1 0 万 2 , 5 0 0 人。（国）</li> <li>○高齢化が激しいのと、なかなか需要が低くなっているという状況で、自動車交通が多くなっているため、デマンドバスに変えたんですが、デマンドバスというものやはり予約が必要だということで、今は A I を使ったデマンド系ということを運行し始めている。（森川村長）</li> <li>○もう今は 2 回目の新交通体制システムみたいなものを入れています。（森川村長）</li> <li>○一方で観光交通に関しても、今まで観光交通のバスについては、主要な観光地だけという感じで送っていたが、明日香全体をもっとゆっくり見て回っていただくという方向に変えていくべきだということになっている。（森川村長）</li> <li>○デマンド交通と観光交通、一般交通と観光交通をどうやって一体的に動かしていくのかということに、今、考え方を変えているところ。時間差であるとか、予約の仕方であるとか、料金であるとかでコントロールできないかということで、今、各先生方のいろいろな御意見いただいて試行をやっている最中。（森川村長）</li> </ul>

委員	項目	意見・ご質問	対応・回答
	世界遺産登録後の交通について	<p>○世界遺産の登録になったときに、交通とかがもつのか交通需要予測等をきちんと行う必要があるのではないか。</p>	<p>○世界遺産は隣の檀原市、あるいは桜井市と一緒に3地区一緒に出している。そのため、土地利用の制約情勢が大分異なる。交通の流れも大分異なり、その中で、各地区を巻き込んでどうやって動かすのかも大きなポイントになってくると思う。(森川村長)</p> <p>○高松塚古墳壁画が発見されたときのような異常なオーバーツーリズムは絶対避けたいということで、ゆっくり本当に楽しんでいただけるものにできるだけバイアスをかけられるように検討している。(森川村長)</p> <p>○オーバーツーリズム対策として、短期的に滞在するという観光の仕方ではない、ゆっくりとした観光をしていただくということに心がけたい。(森川村長)</p> <p>○単なる小学校・中学校の遠足というだけでなく、今10年ほど前から始めているのが教育旅行という、修学旅行で明日香に来ていただいて古民家、民家に泊まっていたきながら、農業体験とか古墳体験をするというようなものも行っている。(森川村長)</p>
B 委員	プロガイドについて	<p>○資料7の3で、プロガイドを養成されているということなんですけれども、具体的に大体の人数、それからこのガイドさんの多言語対応についての現状を教えてください。</p>	<p>○令和4年8月に始めたとき20名ぐらいで始めており、モニターツアー等の研修を受けていただいたりして、今月、5名の方にプロガイドになっていただく状況である。(国)</p> <p>○多言語対応につきましては、いま行われているのは日本語だけである。(国)</p>
	まるごと博物館構想について	<p>○まるごと博物館構想の進捗はいかがか</p>	<p>○既存施設と連携して明日香村全体を理解できるストーリー性のある歴史展示が必要といったところで、既存の施設(万葉文化館等)間でさらに、どういう方向性で連携していくのかというところを、今検討している(国)</p> <p>○整備計画をつくる際と併せて、村の整備基本計画、総合計画の中で構想の位置づけをして、実行している。</p> <p>○内容として、村内には資産・史跡が、国指定史跡のものとか宮内庁管理のものがあるが、これほど点在している。それをどうつなぐのかというのがポイントになって、交通のシステムとか、あるいは旅館をどうするかとか、そういったところを考えていくということを背景にしています。(森川村長)</p> <p>○本構想は長期的な明日香法の未来図というような感じで捉えている。これ</p>

委員	項目	意見・ご質問	対応・回答
			<p>を、整備の状況に応じて、徐々に変化させているという感じである。（森川村長）</p> <p>○直近の大きな計画としては、星野リゾートが2026年の春または夏に整備予定である。（森川村長）</p>
	観光戦略と観光基本計画	<p>○「観光戦略を作成し」という文言がございますけれども、具体的にこの観光戦略というのは今どういった状況にあるのか、作成中であるのか、既に作成されたものがあるのか</p> <p>○観光基本計画、こちらの策定に関しては今後計画があるか</p> <p>○観光の場はプロモーションの戦略だけではなくて、5年、10年、1回ここでどういったお客様にどういった時間を過ごしてもらいたいのかということをきちんと決めていく、皆さん方がどういったスタイルがいいのかということ、村の皆さん方と一緒に、観光基本計画ということで、きっちりと皆さん方が合意を取られていくのが望ましいのではないかと。（楓委員）</p>	<p>○プロモーション戦略としての「明日香があるさ」をつくったと伺っております。</p> <p>○6つ項目があり、「歴史を探求するロマン・飛鳥」、「ノスタルジックに浸る癒し・飛鳥」、「里山で楽しむアクティブ・飛鳥」、「本物に触れる上質・飛鳥」、「地域にとけ込むただいま・飛鳥」、「生きる力を育む学び・飛鳥」といったコンセプトの下に、それぞれメインターゲットというものを決めている。（国）</p> <p>○観光基本法というよりは、今のところはどっちかと言うとまるごと博物館という観光というか地域づくりのベースの図面を用いながら、そこに対して変化してくる要素をどう足し合わせて修正していくかということで検討している。（森川村長）</p> <p>○ベースとなる図面は、本構想の図や、明日香法に基づいた飛鳥の作り方をベースに置いていくという感じで考えている。（森川村長）</p>
C委員	農村景観について	<p>○農村景観がちゃんと残っているというところにすごくいつも感動している。遺跡を目当てに行くわけであるが、その遺跡とやはり農村景観が同時にある、古代の景観がそのまま残されている、保存されていると思えるところが、やはりそこが一番の魅力と思う。</p>	<p>（意見）</p>
	ストーリー性を持った展示、回遊について	<p>○本計画の中で課題として挙げられている、国と県と村の3者の既存施設が連携するということがすごく大事で、全体として先ほど出た、「まるごと博物館構想」というのもありますけれども、ストーリー性を持って、本当に明日香の中に点在している史跡をきちんと巡るコースを幾つも設定していただけるとありがたい。</p>	

委員	項目	意見・ご質問	対応・回答
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○明日香村に、物（目で見える遺跡等）がないとは思わない。</li> <li>○遺跡をきちんとそれ自体の魅力が発信できるような形に、バーチャルとかARに力を入れるよりもむしろ遺跡本体の整備を行ってほしい。</li> <li>○あと、例えば飛鳥京跡とか都城の遺跡や寺院の遺跡に関しては研究がすごく進んでいるので、そうした研究成果をきちんと反映したものにしていただけると、本物の持つ力というのが明日香の魅力だと思っているので、ぜひそういう方向で遺跡の整備等を考えていただけるとありがたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○古代の景観が残っている地域とは、私どもはそこまで思っていない。（森川村長）</li> <li>○現在の明日香の景観というのは、昭和の中期・初期の景観であり。山並みも森林もそうである。（森川村長）</li> <li>○そこに杉・ヒノキ林という昭和の戦後の景観が加わっている。そのため、必要に応じて戻していくことも考えられる。中期・前期、あるいは明治時代の景観に戻していく地域と、もう一点、点的に古代の本物のすごさというのが見える。そういった景観を目指していく。（森川村長）</li> </ul>
	星野リゾートについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>○紹介のあった星野リゾートの計画がどのように進んでいるかを教えていただきたい</li> <li>○オーバーツーリズムにならないゆっくりした滞在というそういう方向に持っていくにあたり、拠点となる宿泊施設が交通とともにきちんと整備されていることが肝要かなと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和7年春に星野リゾートが開業予定。客室数38室の定員91名ということで、建物棟数23棟で、うち客室棟12棟といったところが、少し西のほうでございますけれども、明日香村の中に整備が予定されているというように伺っている。（国）</li> <li>○星野リゾートさんは「星のや」さんを造っていただけるということで、本当に集落をつくるような感じで設定している。そのほか長谷工さんはブランシエラヴィラという古民家を改装して、大きな古民家を改装して2部屋ぐらいにするというような案件で、今1軒もう出来上がっていますが、あと3軒はもう確保されている。（森川村長）</li> </ul>
D 委員	景観について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○明日香法制定から40年経つが、先ほどから景観が昔と変わってないと言われていたが、不適格建築物と言われている、あまり景観的によくないと言われている形状のものは、（除却を進め）40年でほとんどなくなってきている。</li> <li>○駅前のスーパーは、実は完全瓦屋根の高さ10メートル以下で、どちらかというと本当に一般の住宅と同じようなつくりをしているほか、今の庁舎も、明日香法にマッチした庁舎である。</li> <li>○（繰り返しであるが）観光の在り方としては、京都のように多くの人に来ていただくような観光はもう目指さないということ</li> </ul>	(意見)

委員	項目	意見・ご質問	対応・回答
		<p>を前提にして動かしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ただし、40年間かけてやはり課題として考えていることは、農家の担い手が不足してきているということがやはり一番大きい。農業の今最大の担い手は、70歳の後半の団塊の世代の方々。そこに対して、少し変わった種類の投資をしなくちゃいけないと思う。</li> <li>○本当の景観、飛鳥時代の景観が一部見えているということ、本当につくっていく、形成していくことも必要</li> </ul>	
	<p>買い入れ地について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○買取制度で買い取ったものが耕作放棄地になってしまっている。</li> <li>○買入地が75ヘクタールになる。さらに村内でばらばらに点在している。</li> <li>○第1種のところは、ある程度集落の方々に農業し直していただいているところがあり、10ヘクタール程度である。それ以外のところは、買い取って放置されている状態である。</li> </ul>	<p>○買取り地が耕作放棄になっているという問題は、私も現地を拝見したときに非常に痛感したところ。やはりそこが一つの論点じゃないか（横張委員）</p>
<p>E 委員</p>	<p>農業の担い手の問題や買入地の問題について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○優先順位をつけて何から解決していくかというのを決めないといけないと思う。</li> <li>○一番大きな課題というのは、その農業の担い手の問題や買入地の問題であり、これはやはりそこに暮らす当事者でないとなかなか実感としてないことなので、やはりそれを第一に優先させていただきたい。そのための法整備が必要なのか、いろいろな補助金の在り方の検討が必要なのか、具体的に動き出す必要があると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○まず優先順位を決めてやったほうがいいのかというところで、農業の担い手の問題と買入地にまずもうちょっと手を入れるべきだということ、おっしゃるとおりである。（国）</li> <li>○こちらの交付金事業で、その農業の担い手の関係等は今も支援しているが、またしっかりと、どう行った形で支援していくべきかというのを議論しながらやっていきたいと思う。（国）</li> </ul>
	<p>ストーリー性を持った展示、プログラム、回遊について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歴史的資源が点在しており、移動にも時間がかかるため、それぞれが途切れてしまう感覚がある。そのため、包括的な文化プログラムとか教育プログラム等のソフトの部分をさらに充実させていただきたい。</li> </ul>	<p>（意見）</p>

委員	項目	意見・ご質問	対応・回答
	万葉文化について	○万葉ロマンというものを受け取って満足して時間を過ごすということが、なかなかできていないのではないかなというふうと思う。	○万葉ロマンについては、もう今、万葉文化館等の施設そのものはあるがその活用を含め、ご指摘の観点も取り入れながら推進していただくということも重要と考えている。(国)
	就業について	○村外での就業率が60%という話があり、明日香村というような歴史的な日本人にとってのふるさとでありながら、この数字は非常に寂しい。 ○就業したい場所と職種と、年齢も考えられるが、ミスマッチ、ニーズが合っていないということをもう少し分析する必要があるんじゃないか	○村内で人手が足りないと言いながら、村の人が村外で働いているという状況にあるので、就職や働ける場所とかについてのミスマッチというものが発生していると考えられる。(国) ○例えば農業の関係でも就業者を増やさないといけないということで、民間企業と連携して、最新の技術とかを使いながら労力の削減を考えながら、農業従業者を増やしていこうといった取組をされている(国) ○村内で働ける環境というのは村を保っていくためにも必要だと思いますので、引き続き推進していただきたいと思っておりますし、国としてもそこはうまく何かバックアップできればと思っている。(国)
F 委員	農地等の担い手問題について	○農地とか林地がこれからどうなっていくのか、担い手がどういう形で可能性があるのかということに関心が強くある。 ○直接その担い手だけではなくて、そういった方をうまくつなぐような形の中間組織とか、あるいは市民活動などが非常に大事だと思う。 ○そういう方の属性だとか、今後ポテンシャルとして考えられる方が実際どういう地域のどういう方なのかということあたりの分析をさらに進めることが、具体的に進めることが非常に大事と思っている。 ○実際に明日香村に関連してどのような組織があるのかというようなところ、そういうふうな活動をされているとか、活動の一覧だとか、実態みたいなのところを、時間的な推移も含めてお聞きしたい。	○例えば景観保全活動としての取組としては、企業が社会貢献活動として古都買入地に柑橘系のものを植樹したり、成果物を加工品材料に使用して啓発を行っている例とか、シャープさん(民間企業)が買入地を里山化して職員のレクリエーション施設を兼ねた活動をやっているなどの事例がある。(国) ○農地の関係では、明日香オーナー制度という中で、外からの手を入れながら、インストラクターをつけて実際やっていただくといった活動をされている。(国) ○樹林地の関係では、やはりなかなか現在管理されていないところが多いらしいが、補助制度を活用しまして、森林組合主体で間伐等を行ってもらっている。(国)
	森林管理について	○非常に人工林率が高くて、なかなか手入れもできないということだと思うが、国の政策の中でも針広混交林化とか、いろいろな視点で森林を生かすというようなところでの課題に対する	○混交林の議論というのがあった。これに関しては、混交林整備事業というのは、実は数年前から国のほうの金、あるいは県の環境税とかもあり、徐々に始めている。(森川村長)

委員	項目	意見・ご質問	対応・回答
		<p>方向性というのが見えてきてはいると思う。</p> <p>○森林環境税だとか森林環境譲与税だとかいうようなところをうまく使うとかいう形で、特に森林についてどういうふうな具体的な展開を考えていらっしゃるのか、事務局側としてどういうふうに整理しているのか。</p>	<p>○ただ、森林農家等については、明日香村全域は民有林、いわゆる民地であり、林地が全域民地という珍しいところになっている。(森川村長)</p> <p>○そういうところにおいては、民地の所有者の理解を得られるのは難しいと思っている。</p> <p>○今、明日香法のお金も頂いており、森林組合は村で持っています。そこで景観整備や、我々のできることについてやっていきたいと思っていて、今、戦後に植えられた杉・ヒノキ林の一部は、特に集落の周辺で混交林化、里山林化していくことを始めた。(森川村長)</p>
	<p>買入れ地について</p>	<p>○買入地について、県との連携をするということで大変いいことだと思うが、奈良県との連携という形でこうした農地・林地に関連する課題への対応が、具体的にどういう形で進められてきているのか。</p>	<p>○買入地の県との連携については、もともと県が買入れて、その活用方法についていろいろガイドラインをつくろうとされているところ。(国)</p> <p>○確かに明日香村がどのように絡んでいるのか、確認させていただきたい。(国)</p>
<p>G 委員</p>	<p>耕作面積の減少について</p>	<p>○耕地面積が496ヘクタールだったのが、令和2年には211ヘクタールで57%減になっているということで、現時点でこの211ヘクタールというのがもう本当に衝撃的な数字だと思う。</p> <p>○恐らくこの明日香村という特別な歴史的なものがたくさんある中で、この農地を含めた景観を守っていかなきゃいけないということが大前提にあるんだとすれば、やはりこれは一元管理するべきだろうと思う。</p>	<p>(意見)</p>
<p>H 委員</p>	<p>明日香村の価値について</p>	<p>○その特徴を私なりに感じたのは、やはり生きている景観というのがこの明日香村の特徴であると思う。単に昔の古墳とかがあって、それを見に行くというのではなく、その中で生活されている方々がいて、その方々が維持するこの農地とかがあって初めて成立しているような、そういった生きている景観というのが特徴なのかなと思った。</p> <p>○一つのキーワードとして、やはり続けることができないといけないので、持続可能性ということを一キーワードとして念頭に置</p>	<p>(意見)</p>

委員	項目	意見・ご質問	対応・回答
	<p>国・県・村の役割分担の在り方について</p>	<p>きながら検討していく必要があるのかなと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国・県・村の役割分担の在り方についてコメントをいただきたい。</li> <li>○今その国・県・村の役割分担の在り方で少し例えば課題だと思われる点があったら御教示いただきたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○役割分担の話ですが、基本的にはその整備計画に基づいて、国は直轄でやっている部分も、例えば文化財の防災措置なり、文化庁の高松塚壁画の公開施設の基本計画を作るといことがある。（国）</li> <li>○あとは、国としましては交付金の趣旨として、明日香村さんが主体的に行うものを支援するといった役割も持っております。あと、県は整備計画をつくった主体でございますので、その進捗、進め方なりをしっかりと見いただいている。（国）</li> <li>○県はいわゆるハード物を結構持っていたりいたします。例えば古墳の整備の関係、飛鳥宮跡の関係の整備の関係でございますとか、県道とかもございませし、そういったものを受け持っている。（国）</li> <li>○地方の中でも、都道府県という役割はやはり中間的な機能として、市町村が持っている人材、金、そして施設では対応できないような全体計画をつくるであったり、完了するであったり、法的な要素をコントロールするであったりという役割があると思います。買入れを実際やっていたいっているのは県ですし、その運用を考えていただいているのも県で、最終的に方針の確認というのは国がしていただいている。（森川村長）</li> <li>○明日香村は貴重な文化資源が残る場所であり、そういう地域の拠点性を皆で残しながら、その中で新しい方向性を探ろうとしている。我々の地区が、国としてそのモデルケースで使っていただけているんだというふうに理解している。（森川村長）</li> </ul>
I 委員	<p>農地、森林について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農地について、一般の水田、あるいは畑地、果樹園、この辺の農地も実は戦後すぐに森林から農地へと多く変わった。</li> <li>○そういった農地は、山のほうに戻すべきと思う。森林は、農地や宅地に変わるというのが、それが自然の帰着だと思っていると思われませんが、逆に山に戻すときが今じゃないのかと思っています。</li> </ul>	<p>（意見）</p>

委員	項目	意見・ご質問	対応・回答
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○その中で本当に農村景観的、あるいは農業としていいところは農業で残したいと思いますし、棚田やいわゆる稲作地での構想をしている。</li> <li>○飛鳥寺の周辺、香具山から飛鳥宮までの間というのは、歴史的風土の1種地域がかかっており、水田をほとんどやっていたが、本当に我々としては精いっぱい努力しているが、もうお手上げ寸前。</li> <li>○そこの辺で民間企業さん、あるいはもっと団体、企業団体みたいなもので農業をしていただくというための組織化を図るために、まずその間に入る組織というものを来年度1年でつくり上げようと思って、予算化も今したところである。</li> <li>○そのような様々な取組が本当に必要な時期に来ていると思うが、年5ヘクタールずつぐらい農地が失われていっている。</li> </ul>	
	農地、森林管理の担い手について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○若い世代は土地があるからやると言う人はいない。もう放棄しますという方向に今大きく変わってきている。</li> <li>○その代わり、我々にその農業をさせてもらえないかと来る方々もかなりの数いる。</li> <li>○そういう方々で実は一番そのハードルになっているのは、農業用の家がないということである。農機具も入れなくちゃいけないし、そういうようなセットで考えるというのが必要な時期に来ている。</li> </ul>	(意見)
J 委員	景観について	<ul style="list-style-type: none"> <li>○景観って保存するのではなく保全するんだという話を常にしており、景観は変わるということがそもそものアイデンティティであって、どう変えていくのか、人がそこで営みを続ける限りは必要なことなんだと思う。</li> </ul>	(意見)

委員	項目	意見・ご質問	対応・回答
	<p>今後の生業について</p>	<p>○生業の在り方としては、今もう既にその仕事の在り方そのものが大きく変わっていて、一時はワーク・ライフ・バランスと言われてきたものが、今、ワーク・イン・ライフになってきて、さらにはこの先はワーク・ライフ・インテグレーションになるんじゃないかなというふうな時代になってきている。</p> <p>○そういう時代の動きの中でもって生業というのをどう考えるのか。こういったことも絡んでくる話なんじゃないかと思う。</p>	<p>(意見)</p>